平成24年度　学校評価総括表

教育目標	確かな学力と豊かな学力を持ち、健康でたくましい生徒の育成を図る。 ～知育・徳育・体育・食育の調和のとれた人づくり～
経営方針	「友愛・自治・礼儀」「明るく元気に生き生きと躍動する学校」
本年度の重点目標	(1)基礎･基本の学力と、より良い学習習慣の定着を図り、自ら考え学ぶ、自己学習力を育成する。 (2)日々の生活や行事等を通して、集団としての質を高め、より良い 生き方を求める人間力を育成する。 (3)基本的生活習慣を確立し、健康な体、体力の向上、望ましい食習慣を育成する。
自己評価の総括	今年度は中間評価を7月に行い、年度内の改善・実行に向けて取り組める態勢を整えた。また、アンケートを各校務分掌の教師が作成するとともに、アンケート結果にもとづいて全教職員が成果・課題・改善方策について話し合い、教育活動を改善した。来年度もPDCAサイクルを着実に行い教育成果を積み上げたい。

中分類	小分類	中分類の重点目標	自己評価	結果	成果	課題	改善方策など	学校関係者の評価
教育課程	①教育目標の設定	・生徒の実態に即した教育目標を揚げる。 ・新教育課程に対応するとともに西中の伝統と特色を生かす教育課程を編成する。 ・生徒の主体性を伸ばす行事を行う。	4	4	・生徒保護者ともに各項目とも80%以上がおおむね良好であると回答している。 ・各学年での行事では班別活動や合唱の取り組み等で生徒の主体性を伸ばすことができた。	・宿泊行事や校外学習での班別活動および兄弟学級での行事報告会などを充実させ、生徒の主体性を伸ばす必要がある。	・西中学校の伝統をふまえた上で各学年の目標に応じた指導を行う。 ・特別活動の集約・厳選を検討する。	・合唱の自己評価が低いのではないか。素晴らしい合唱である。 ・2年生の校外学習は、修学旅行の事前学習として計画、グループ行動が主体的に行えた。
	②教育課程の編成		4					
学習指導	①指導方法の工夫改善	・表現力を育成する。 ・わかりやすい授業を創造する。 ・評価・評定の客観性・信頼性を確保する。	3	3	・シラバスを有効活用することによって、生徒に評価の方法を伝えることができている。 ・各教科の表現力育成に向けた取り組みや、1分間スピーチの実施により、表現力が育ちつつある。 ・学習成果に対する生徒の掲示物が充実した。	・生徒の目線に立ったわかりやすい授業の創造が課題である。 ・先生に質問しやすいと感じている生徒が半数にとどまっている。 ・学習評価に関する点検体制を強化する必要がある。	・成績下位層の生徒への補助教材提供等、幅広い学力層に対応した指導を行う。 ・年度当初に学力状況調査を導入し個々の生徒の指導に役立てる。	・教材準備が熱心である。 ・スピーチなど上達してきた。さらに、力を伸ばすため討論を取り入れては。 ・学力状況調査をぜひ活用してもらいたい。生活状況調査Q－Uも有効。
	②評価		4					
生徒指導	①組織的な生徒指導	・規範意識の向上を目指した指導を行う。 ・正確な情報収集と迅速な対応を行う。 ・生徒の内面理解に努める。	3	3	・集会を通して、規範意識を向上させる・日々の生活を充実させることができた。また、学年会議等で、生徒の情報交換をして連携を図り、生徒個人に合った指導ができた。さらにスクールカウンセラーとも連携し、悩みを抱える生徒の指導ができた。 ・生徒の自尊感情の向上し、学習面への波及効果が大きい。	問題行動を繰り返す生徒に対してどのような支援をしていくかが課題である。 ・悩みが深く養育が充分でない家庭への支援活動の多様化を図る必要がある。	生徒指導委員会を中心に、できるだけ指導を系統化していくとともに、日常的な生徒との関わり合いを通してよりよい価値観の育成を図る。また、学年の枠を越え、学校全体で関わりを持つようにする。	・日常の生徒との会話は大事であり、生徒指導の基礎となることである。昼食指導が良好であり、安心である。 ・昼休みに運動場に出る職員や業間、教室に残り生徒とのコミュニケーションを図っていることは良いことで、続けてほしい。
	②問題行動の指導		4					
	③生徒指導		3					
進路指導	①組織的な進路指導	・3年間を見通した進路指導計画を立て、実行する。 ・正しい職業観を3年間を見通して育て、進路の希望を持たせる。 ・進路実現に向けて生徒や保護者の相談を聞きながら適切な指導を行う。	3	3	3年生では、担任が個別に懇談の機会を設け、進路について相談しやすいような配慮を行えた。学力向上委員会や進路説明会の空き時間などを利用して、進路についての相談に個別に対応できた。 ・″心の匠″特別授業によって、生き方を学ぶことができた。 ・技能士連合会による「兵庫の匠」キャラバン隊による特別授業の実施。	トライやる等の社会体験から進路学習につなげようとする意識が弱く、具体的な取り組みがなされていない。	・学年を越えた担当者同士の連携や情報交換を行う機会を意図的に設けていく。特に「トライやる担当」と「進路担当」の連携を行う。 ・3年間を見通したキャリア教育の指導計画をつくる。	・数少ない就職希望の生徒の進路実現。たいへんとは思うが、支援を続けてほしい。 ・進路説明会は全学年対象に実施。PTAの学力向上委員会での懇談会も盛況であった。
	②勤労観・職業間に関する		3					
	③進路相談		3					
安	①学校防災計画の立案	・危機管理のマニュアルを作成する。 ・消防署や警察署交通安全課など地域と	4		消防署や伊丹警察、地元トラック協会との連携や、1，2年生対	避難訓練および交通安全教室等への保護者の参加を検討す	消防署、伊丹署等関係機関による講習の機会にPT	･オープンスクール時に企画する自転車教室

全管理	②関係機関との連携	の連携を図る。 ・交通安全教室や、登下校指導を行う。	4	4	家の交通安全教室では、3年生から1，2年生へ勉強したことの報告等を通して、交通安全に対する意識が高まった。	る。 ・安全点検を徹底し、危機意識の向上を図る。	A企画委員会各部からの参加協力を進める。	は、重要であり意義がある。 大人のマナー向上による子どもの育成も図れる
保健指導	①体力づくり ②健康管理能力の育成 ③健康管理の啓発	・学校保健委員会を実施する。 ・保健室の適切な利用について指導する。 ・感染症予防を徹底する。 ・校内の事故防止に努める。 ・健康管理の啓発による丈夫な身体づくりを行う。 ・食に関する指導の取り組み。	4 4 4	4	・学校保健委員会を実施して、熱中症予防の取り組みができた。 ・保健室の利用状況は良好で、家庭の協力もあった。 ・保健だよりなどで健康管理の啓発ができた。	・「規則正しい生活の呼びかけ」でできていないと感じている生徒が3割くらいいた。 ・食に関する指導への取り組みができなかった。 ・薬物，ドラッグ等に関する教育を年間指導に位置づけて行う必要がある。	・学校保健委員会などで食に関する内容を取り上げる。 ・保体委員での、「規則正しい生活」の啓発ポスター作りや呼びかけ等を通じて、健康な生活をしている生徒を8割以上にする。	・食育の観点から、給食の導入が検討されているが、教育予算は給食ではなく、他の教育費に用いてほしい。
研修	①授業研究 ②表現力の育成 ③自己研修	・3グループに分け、各教科による研究授業を実施する。 ・研修会を月例化する。 ・各クラスで、終礼時の1分間スピーチを実施する。 ・計画的にOJTを実施する。	3 4 4	4	・予定通り研究授業を行い、言語活動を取り入れた授業ができた。 ・月1回は研修を行い、研究テーマの定着がはかれた。 ・終礼時のスピーチや各学年の総合学習で取り組み表現力を高めた。 ・OJTや夏季研修などさまざまな研修に積極的に参加できた。 ・学習指導案の作成能力の向上。 ・表現力の育成のため先進校視察「刈谷市立富士松中学校，福井市光陽中学校」をおこなった。	・終礼時のスピーチの時間確保が難しい。 ・スピーチの質が高まりにくい。 ・研修の成果などが反映されにくい。 ・意欲的に発言するような指導の工夫を考察する必要がある。	・学年でスピーチの時期を決めておく。 ・先輩が後輩の前でスピーチするなど、交流を行う。 ・研修報告の場を、発表や印刷物などで設ける。	・グループワークは子どもの考えが出やすく、意欲的な活動となっていた。（市指定研究発表会に参加して） ・日本の授業スタイルに問題がないか。コミュニケーション能力の育成の方法の検証が必要。挙手して、発表が最適な方法か。
特別支援教育	①組織的な特別支援教育 ②特別支援教育の内容	・職員間で情報交換を活発に行い、生徒理解を深める。 ・個別の支援計画・指導計画を立案し、実行する。	4 4	4	毎月の推進委員会で特別支援教育担当者、特別支援教育支援員等で情報交換や話し合いを行うことができた。また、そこでの情報を学年会でも共有してきたことが、生徒理解に活かされつつある。	個別の支援計画・指導計画に基づき、それぞれの生徒に、より適した接し方・支援方法を持って関わっていく必要がある。	小学校から、あるいは前学年からの引き継ぎに支援計画や指導計画、サポートファイル等も活用する。	適切に評価している
組織運営・情報管理	①学校経営方針 ②情報の収集・保護・管理 ③校務分掌	・職員への学校目標の浸透させる。 ・職員間の連携を図る。 ・適切な仕事分担を行う。 ・校内委員会を活性化させる。 ・個人情報の適切な管理を行う。 ・無駄を排除する。	4 5 2	3	・ホームページ閲覧数は公立学校としては多い方と思われる。 ・個人情報の保護は的確になされている。 ・校内各委員会が企画調整上機能した。	・ワークライフバランスを適正化する必要がある。 ・年度当初，企画立案時および成果をまとめるとき等に学校経営方針を意識し、西中教育の方向性を確認する必要がある。	・先を見通した仕事を行うことにより、ノー会議デー、ノー残業デーを推進し、教員の計画性を高める。	適切に評価している
保護者・地域との連携	①学校情報の発信 ②学校(授業)公開 ③家庭・地域との連携	・学校が積極的に情報を発信する。 ・保護者地域の方々に行事開催によって開かれた環境を作ることで、保護者、地域から信頼させる学校づくりを進める。 ・ボランティア活動や地域の行事などに積極的に参加する。	4 4 4	4	・今年度2学期のホームページの訪問者が昨年度の2倍になっている。 ・11月に学級懇談会を行い、生徒の行事への取り組む様子などを伝えた。 ・オープンスクールの案内を小学校で配布してもらい、小学生とその保護者も参加できるようにした。 ・PTA企画委員会で個々の教員の専門性を生かし、教育内容をアピールできた。	・家庭学習の時間を増加させる必要がある。	・懇談において、保護者の希望があれば二者懇談に切り替えるなど、家庭とのより強い連携の取れるように柔軟に対応する。 ・生徒の携帯所持を見合わせるように啓発することで、ﾈｯﾄﾄﾗﾌﾞﾙ防止、家庭生活の安定図り、家庭教育の充実に結びつける。	・あいさつができるようになってきた。さらに、地域に置いても知っている方に積極的に挨拶をができるようになればなお素晴らしい。特に、学校関係者の地域の方に学校から離れていても挨拶してくれるとたいへん喜ばしい。
施設・	①教育環境の整備 ②施設・設備の有効利用	・生徒の美化意識を高める掲示物を貼る。 ・本校は下足で上がるため、校舎に土を入れないようにする。 ・掃除用具の点検・管理をする。	4 3	3	・清掃時間にはほとんどの生徒が集中して取り組むことができている。 ・移動教室・外での授業後の土砂を払ってから校舎に入るという呼びかけも美化委員を中心に行い一定の成果をあげている。	・清掃活動外での美化意識（ゴミが落ちていたら拾うなど）を徹底する必要がある。 ・施設の施錠を徹底する必要がある。	・新年度から、ポスターや校内掲示板を活用し、全生徒にむけて、“もったいない”精神の育成、呼びかけを行う。 ・H25 本館、体育館1階のト	適切に評価している

設備				的成果を上げている。 ・清掃用具の点検・整備を月1回行うことができた。 ・朝学活時に学年付教員が担当学年廊下を巡回し共用箇所の整理整頓にあたっている。		イレの改修。	

学校関係者評価の総括
儀式的行事、文化祭等の行事において、生徒たちの母校愛を感じさせるすばらしい合唱を聴くことができる。日常の授業並びに校外学習などでも生徒たちの主体的な活動を実現しようとする教員の意欲が伝わってくる。着実に学力向上のための方策も考えられており、今後の成果も期待できる。教育活動を充実させるために平素から情報発信に努めている。また、PTA役員とともに協働する教職員の姿勢があって、多方面からの信頼を得ている。
次年度に向けた重点的な改善点
・生徒指導については、保護者や関係機関との連携を密に図りつつ、カウンセリングマインドをもって生徒指導を行うとともに、より豊かな学校生活がすごせるよう生徒の意識を高める生徒指導に努めたい。 ・進路指導については、2年後（平成27年3月）に予定されている公立高校学区拡大についての情報収集を積極的に行い、進路指導に伴う進路先に関する情報を保護者に提供することによって、家庭の教育力の充実を期待する。地域の社会人の皆様にご指導を願う職業体験学習「トライやる・ウィーク」を通して地域との連携に努める。 ・保護者・地域との連携については、オープンスクール時の学級懇談会や文化祭の展示週間など工夫をしてきたがさらに、より多くの方に生徒たちの学習姿勢をご理解いただけるよう開催方法等について工夫する。